

## Ⅲ ワークショップ実施内容等

第1回（平成27年7月～8月上旬実施）結果

・各開催地の講師は、それぞれ消防団員確保アドバイザーを講師に迎え、助言を受けた。

### 【尼崎市消防団】

開催日時：平成27年7月25日（土）午前10時00分～12時00分

開催場所：尼崎市消防局防災センター

講師：瀬戸市消防本部次長兼瀬戸市消防署長 森山修次氏

内容：消防団員入団促進及び地域住民への普及啓発活動検討会

### （講師による助言内容）

消防団の活性化に向けて、ありとあらゆる取組みを実施することが大事。  
例えば、瀬戸市では以下のような取組みを行った。

#### ① 積極的な広報 PR

- ・消防団員の募集チラシ・ポスターについて、若い世代をターゲットにした見た目重視に変更。（成人式等での配布や自動車学校等にポスターを掲示）
- ・ラッパ隊（地元の吹奏楽団に指導を依頼）、赤バイ隊をつくって各種行事で PR。  
（※長野市もラッパ隊が活躍）

#### ② 入団資格の拡大（市内在住を市内在住在勤へ）

火災対応だけでなく予防広報などにも従事。

#### ③ 災害支援団員（機能別消防団員）制度を創設（火災や大規模災害のみ対応）

OB団員の活用（法令や消防団活動基準について受講した上で活動）

#### ④ 消防団による安全安心パトロールの実施（消防団の PR にもなる）

#### ⑤ 消防団応援事業所（応援の店）制度の実施

職員ではなく、消防団員が依頼・説明を行う方がよい。（人間関係を活かす）

※兵庫県も平成27年度よりモデル実施。

※岐阜県、愛媛県松山市、静岡県伊東市、愛知県豊橋市、埼玉県狭山市等全国的に展開が進んでいる。

#### ⑥ 女性消防団員の募集と活動。（応急手当指導員講習や住宅防火査察、広報活動や幼児・児童への啓発活動など）

※女性分団の設置



⑦ 消防団応援サポーターの制定

市内出身のアーティスト等を任命。報酬は無く行事やイベントなどに出演して消防団のPR。ブログやSNSを活用した消防団PRなど。

⑧ 学生団員認証制度（消防団活動をした学生を認証し、就職活動を有利に）

※松山市や東京都でも実施

POINT!!

◎何もしなければ団員は減少する一方であり、活性化に向けてあらゆることに取り組んでほしい。地域と一体となることが大事だ。市民への積極的なPR活動により、固定されたイメージを払拭し、消防団に対する認識を高めてほしい。



## 【福崎町消防団】

開催日時：平成27年7月26日（日）午後1時00分～午後3時00分

開催場所：福崎町サルビア会館

講師：広島市西消防団女性隊隊長 神村登紀恵氏

内容：福崎町消防団活性化検討会

### （講師による助言内容）

広島市では、平成25年に広島市消防団活性化計画を作成するため、活性化検討会を発足し、男性消防団員、消防団員の勤務先へのアンケート、女性団員へのヒアリング、市民への意識調査を実施した。さらに先進的な活動を行っている北九州市、仙台市、松山市等の取組みについて調査を行った。

それらの結果を踏まえ、平成26年12月に広島市消防団活性化計画が完成し、平成27年度より計画に基づいた取組みを開始している。本市の取組みとあわせ、先進的な活動をしている他県の取組も紹介する。

### 【少子化に伴う今後の消防団員の確保】

#### ① 若者の入団促進

- ・新規採用職員全員が2年任期で消防団へ入団。（山梨県甲斐市）
- ・大学生を機能別団員として採用し「防災サポーター」とする。（卒業時に正式な団員として入団してくれるケースもある。）（熊本市）
- ・県庁職員による県庁部の発足。（佐賀市）

#### ② 消防団活動の充実（広島市）

- ・指揮命令系統の充実、処遇の改善、装備の充実・強化、訓練・研修の充実。
- ・災害時に資格を活かして活動できるよう、派遣要綱や活動要綱の充実。
- ・応急手当やポンプなどのマイスター制度を設け、消防学校で訓練を受けたマイスターを各消防団員の教育に活用し、消防団のレベルの底上げを図る。

#### ③ 女性消防団員の活動・役割（女性の持つソフト面を活かした活動）

- ・防火訪問（高齢者、独居住宅）、応急手当普及員（学校、企業、地域団体）・指導員、予防広報活動。（紙芝居、寸劇、漫才など）
- ・災害時は後方支援として、建物火災の道路警戒や被災者の避難誘導等を行ったり、避難所の活動支援（活動服を着て活動していることが安心を招く）を行う。
- ・全国的にみると、男性と同じ活動を行っている女性消防団もある。

#### ④ 地域との連携強化

- ・自主防災会との防災訓練等、地域アシスト制度、青年育成事業。

#### ⑤ 消防団活動に対する事業所の協力体制

- ・消防団協力事業所

事業所に一定数の消防団員が所属、有事の際に資機材の提供を行う、事業所に機能別分団を設けるなど消防団活動に協力的な事業所に配布。



※長野県、静岡県では税制優遇措置がある。

・消防団員応援事業所（兵庫県でも平成27年度より実施）

消防団員が「消防団員証」を提示することで、料金割引や特典が受けられるなど、様々な形で消防団を応援していただける事業所へ交付する。

地域全体で消防団活動を盛り上げ、地域の活性化にも繋がる。

**POINT!!**

◎消防団の活性化には、人との繋がりが一番大切である。常日頃の活動の中で、既に出てきている人間関係をもっと活かしていくべきである。



### 【養父市消防団】

開催日時：平成27年8月4日（火）午後7時30分～午後9時30分

開催場所：養父市立八鹿文化会館

講師：（元）野州市消防団副団長 山本きぬ江氏

内容：女性消防団意見交換会



#### （講師による助言内容）

野洲市女性消防団の主な活動としては、一人暮らし高齢者防火訪問、保育園・幼稚園・小学校防火訪問、街頭広報、防火啓発、救命講習、災害現場での情報収集・後方支援など多岐にわたっている。

全国的に消防団員数は減少しているが、女性消防団員数は増加している。女性消防団員は、市民向けの防火指導などに向いていると思う。

ただし、防火訪問など平日の出動が多いことや、家族の理解が必要といった活動上の問題点も多い。女性消防団員が活動しやすい環境づくりが必要である。

どのようにすれば女性消防団員が活動しやすいのか、男性団員も女性団員の活動

に参加するなど、組織をあげて考えてみてほしい。



**POINT!!**

◎女性消防団員は、①目的ややりがいを持って活動すること②女性の持つ特徴を前面に出して活動することが大切。

## 第2回（平成27年11月～12月）結果

・各地域における実情を踏まえた課題等の確認と取組方策について意見交換した。

### 【尼崎市消防団】

開催日時：平成27年11月28日（土）午前10時00分～12時00分

開催場所：尼崎市消防局防災センター

参加者：団長及び副団長6名、消防局職員9名 計16名

### 《内容と結果》

#### ①消防団員応援事業所モデル事業実施に係る取組みについて

県内で消防団員応援事業所がモデル事業として取り組まれている。第1回の講師の話にも、瀬戸市での先駆的な取組みの紹介があった。

当該事業には、消防団員確保に向けたインセンティブという側面もあるが、むしろ重要なのは、地域住民にまず消防団活動を知ってもらう、消防団の認知を高めることにあり、尼崎市消防団としても実施する方向で考える。については、どのように進めるのが適当か検討した。

具体的には、①消防団員が経営している事業所への依頼、②社会福祉連絡協議会や地域振興センター、阪神・淡路大震災の時に団員への食事提供など協力的だった地域の店舗などへの依頼、③商工会議所への依頼 の3つのアプローチが考えられる。

検討した結果、まず①の団員が経営している事業所に依頼して、実績をつくったうえで商工会等への展開を図ることになった。

#### ②消防団員入団促進及び地域住民への普及啓発活動について

市内6地区（中央・小田・大庄・立花・武庫・園田）の直近の消防団員数資料を参考に、各地区からそれぞれの現状や団員確保対策等について、意見交換を行った。

### 【主な意見】

- ・ある分団では、保育園と顔つなぎになって、保育園の催しに子供用の防火衣を持って、園児達に記念撮影等してもらうと同時に、父兄へ消防団の普及啓発活動もを行っている。
- ・ある地区では、広報誌に分団の活動記録やコメントを紹介し、消防団の活動を地域住民に知っていただき、理解と普及啓発を図っている。
- ・地区によっては、地元出身者限定など入団条件を設けている場合もある。
- ・入団した際、すぐに制服等が貸与されないのも入団促進が進まない要因であると考えるので、分団や地区どうしで調整し、速やかに貸与されるようにしていくべき。
- ・社会人でないと入れていないところもあるし、学生でも入れている分団もある。
- ・広報誌や消防団をPRするパンフレットをつくるのもいいかもしれない。そういう

- 活動も必要ではないか。
- ・昔は農家が多かったが、サラリーマンが増え、マンションやアパートに済んで地域に住んでいる。地元の人が減っているので、建て売りの家をねらって勧誘している
  - ・親の方が「入ったらしんどい」といって否定することがある。昔の消防団の悪いイメージを引きずっている。イメージを変換させる取組みが必要だ。
  - ・地元の人を勧誘しても親がまず「息子はあかん」といって断られる。
  - ・祭りの時に子供会の父親に声をかけたりしている。

#### 【今後の方向】

各地区、分団によって事情はさまざまであり、団員確保もこれをやればすべて解決するといった手法はない。引き続き各地区で消防団活動の理解促進と団員確保に努める。

#### 【福崎町消防団】

開催日時：平成27年11月29日（日）午後10時00分～午後12時00分

開催場所：福崎町役場

参加者：団長及び副団長8名、役場職員3名 計12名

#### 《内容と結果》

##### 消防団員の確保と消防団協力事業所について

#### 【兵庫県の現状】

- ・全国一の消防団員数であるが、平成26年から27年で団員数の落ち込み率が全国でワースト1位となった。
- ・女性消防団員や通勤者、通学者の団員を採用等、消防団員の確保への取り組み。
- ・就業形態の変化に伴い、勤務している団員が消防活動に出にくい状況にある。
- ・企業内消防団の採用（松山市の車販売店など）の検討。
- ・女性消防団員は62団中38団で、姫路市は3団ある。女性消防団員の割合は全国が2.6%、兵庫県は1.1%である。
- ・三田市では大学生を本部付の消防団員に採用している。
- ・消防団応援の店は篠山市、伊丹市、加古川市などで実施。伊丹市は消防団長自らが訪問して協力依頼をしている。

#### 【主な意見】

- ・生産中に持ち場を離れると仕事が止まってしまうので消防活動に出にくい。
- ・町外に仕事に行っている方や遠方に出ているときは帰って来られない。
- ・自営業が必ずしも動きやすいとは限らない。自分が動かないといけない現場もある。逆にサラリーマンは代わりの人がいれば出やすい場合もある。



- ・職場にはある程度協力いただいているが、責任もある。
- ・工場で働いている方で携帯電話を持ち込めない所もあり、緊急時に会社に連絡をしてもいいものか判断に困るときがある。
- ・団員の定数はある程度確保しておかないと実働人数を確保できない。人数が多ければ昼勤や夜勤の方など、様々な就業者ができることにより、例えば昼間の緊急時は夜勤の方が出動できるなど、緊急時の活動の団員確保ができる。
- ・土木や建築現場において、火災等で緊急出動すると仕事はストップしてしまう。工事の遅れが生じるのでお客さんの理解も必要となる。
- ・消防団活動において、水防活動は特に人数が必要となり、団員確保は重要である。
- ・台風や大雨時の水防活動は広範囲となるため、会社の理解は得られやすいが、火災は一部だけなので理解をしてもらいにくい。
- ・勤務中の消防団活動は公休や有休と、企業によって様々である。
- ・協力事業所は企業にメリットがなければなかなか理解を得にくい。

**[参考]**

協力事業所表示制度は41市町中21市町が導入しているが、事業所数は少ない。長野県や静岡県で事業税減税を実施しているが、MAX10万円でメリットは？入札審査で加点（神戸市）入札に参加する企業はいいかもしれないが・・・。

- ・会社の社長が消防団活動を理解していても直属の上司が理解していないこともあり、社員に消防団活動の必要性が浸透していない。
- ・企業内消防団の話があったが、企業の方をどこかの分団に入れるのは難しいと思う。訓練等では合同でする必要があるとおもうが、団としては単独のほうが良いと思う。
- ・消防団は「集って飲んでばかり」というような悪いイメージを持っている人がいまだにいる。消防団活動の映像を配信してもらいたい。
- ・消防団へ入団することを義務化できないか。
- ・地域の祭りのときには若い子に入団を勧めている。若い子に興味を持ってもらうために、高校へ出かけていくというのは良いかもしれない。
- ・これまでこの地域では、特に村では消防団に入るのは当たり前だった。今は定数も確保できていて平均年齢も若いですが、この状態が続くことは難しい。今のうちから何か方策を検討しておかないといけない。女性団員やOBを機能別団員とすることも必要か。（しかし、女性が一人、二人では何もできないのではないか）

**【今後の方向】**

- ・消防団活動がしやすい状況にするためには、事業所の理解が最も重要であり、いかにして事業所に理解してもらえるかが課題である。
- ・消防団の応援の店を積極的に実施していく方向で検討する。

## 【養父市消防団】

開催日時：平成27年12月2日（水）午後10時30分～午後12時00分

開催場所：養父公民館視聴覚室

参加者：但馬地区各消防団長10名、各消防団事務局職員10名 計20名

## 《内容と結果》

### 但馬地区各消防団の活動や取組み及び消防団員確保対策等について

第2回は、但馬地域の各消防団の活動や取組み状況について、意見交換を行うこととし、事前に作成された各団活動等状況調査表に基づき各団から説明（詳細別紙）と意見交換を行った。

#### ① 新入団員の確保等について

- ・どの団も団員確保が難しくなっている。
- ・地域は地域住民で守るという意識が希薄になっているようだ。
- ・住民票は市街地にあって実家の分団で活動されている団員が多い。
- ・機構改革を行う時期に来ている。機構改革を行うごとに消防への意識が薄れている傾向にある。
- ・親が入団に反対する傾向にある。

#### ② 会議等の開催状況と対象範囲等

- ・定期的に正副団長会議、分団長会議、副分団長会議などを開催し、行事を実施している。

#### ③ 防災訓練の取組みと関わり

- ・消防団は地域の指導的立場で参加している。

#### ④ 災害時の出動連絡

- ・各団、登録制の一斉メールで団員に周知。

#### ⑤ 火災の出動連絡

- ・各団、登録制の一斉メールで団員に周知。  
豊岡市は火災メールに地図を添付している。

#### ⑥ その他特徴ある取組み等

消防団名	取組み等
豊岡市豊岡	・豊岡市では消防車にドライブレコーダーを取り付けた。 ・年2回献血事業を実施。
豊岡市城崎	・毎年11～12月に各家庭を訪問し、住宅用火災警報器の設置状況と設置推進を目的に「我が家の防火診断」を行っている。

豊岡市竹野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員充足率が 99.31 ٪と高い。「辞める時は後任を連れてくる」意識が高い。</li> <li>・不時招集訓練を行っている。</li> </ul>
豊岡市日高	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員充足率が 99.31 ٪と高い。「辞める時は後任を連れてくる」意識が高い。</li> </ul>
豊岡市出石	<ul style="list-style-type: none"> <li>・但東消防団との合同訓練を定期的を実施している。</li> <li>・平成 27 年操法大会において女性団員が消火栓からの放水演技を実施した。</li> </ul>
豊岡市但東	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出石消防団との合同訓練を定期的を実施している。</li> </ul>
養父市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能別消防団員制度を平成 28 年 4 月から運用予定であり、昼間の火災のみ出動していただくと考えている。</li> <li>・平成 27 年度中に消防団無線を IP 無線機（ドコモ回線）にする。</li> </ul>
朝来市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度より条例定員を削減し、新体制で団運営を開始する。</li> </ul>
香美町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 25・26 年度、消防委員会を設置し組織と定数、装備などについて答申があった。内容は現状に合わせて、団員定数削減、軽積載車の増車、機能別消防団員制度の導入、消防団協力事業所表示制度の導入、消防救急無線のデジタル化を図る計画となっている。</li> <li>・苦肉の策の機能別消防団員制度で消防本部の消防長も加入していただいている。</li> <li>・団員の補佐的な役割を担う。昼間の火災は有効的である。ただし、制度を構築してから出動実績がない。</li> </ul>
新温泉町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防団無線のデジタル化を行っている。防災告知について本年度から一本化で放送できるようになった。</li> </ul>

☆機能別消防団員制度を香美町が導入、養父市においても来年度導入予定。

☆香美町では消防団員事業所表示制度を導入し、認定された事業所は、入札で優遇制度を導入している。

#### ⑦ 女性消防団員の取り組み

但馬地区 10 団の内、4 団（豊岡市豊岡、豊岡市出石、養父市、朝来市）に女性消防団員が在籍している。

各団において防火訪問やパレードなどの防火思想の普及推進にあたっており、消防本部の指導を受けて救命講習の指導員として従事している団もある。

その他、主に行事の補助的な役割を担っている場合が多い。

#### 【今後の方向】

同じ圏域の中で共通の課題もあることから、各消防団の活動状況について情報共有を図り、その情報を各消防団が持ち帰って、それぞれの活性化に繋げることにした。

・次代を担う若手消防団員から見た消防団の現状、課題や、若手消防団員が考える消防団活性化方策、消防団の将来等について各地区内で意見交換

### 阪神地区

開催日時：平成28年2月14日（日）午後3時30分～午後5時00分

開催場所：ホップインアミング

参加者：消防団員15名、各消防団事務局職員等14名 計29名

内容：若手消防団員が考える消防団員の確保対策と消防団の活性化等について

阪神地区8消防団から集まった20代から40代までの若手消防団員15名（階級は部長1名、班長2名、団員12名）で、消防団員の確保対策及び活性化について意見交換した。

#### 【消防団の現状と確保対策】

退団時に新入団員を勧誘して入団させるなど、定数保持に努めているところだが厳しい現状である。

災害時の消防団活動や人命救助にかかるドラマなどの影響で、消防団に興味を持つ人や、地域の防災訓練における放水体験、消防車の展示等がきっかけで入団された人もいる。

☆地区の行事や訓練を利用し、消防団活動を知ってもらうこと。身近な人が活動する姿を見せることが大切。

☆新興住宅街へ引っ越して来た人も入団しやすい環境を作る。

☆学生消防団員の採用→「消防団」を理解した上での入団が必須

☆消防団OBの再入団

#### 【消防団の活性化のために】

消防団応援の店について若手消防団員が思うこと

☆家族の消防団に対するイメージアップに繋がる。

☆ひととの繋がりが広がる面で、メリットがある。

☆協力店舗に対する大きなメリットがあれば、さらに広がると考える。

自主防災会や自治会活動へ積極的に参加し、人との交流の中で、消防団をPRしている。

さらに、各分団との合同訓練や、講習会で他分団の人と交流をはかり、繋がりを作っている。

団員確保の厳しい現状を打破するため、消防団の活性化のために考えられること

消防団活動の効果的なPR

## 中播磨地区

開催日時：平成28年1月23日（土）午前10時00分～午後12時00分

開催場所：姫路市防災センター

参加者：消防団員20名、各消防団事務局職員等8名 計28名

内容：若手消防団員が考える消防団員確保対策と理想の消防団（員）

中播磨地区11消防団から集まった20代から40代までの若手消防団員20名（階級は分団長3名、班長7名、団員10名）で、消防団員の確保対策、そして理想の消防団（員）について意見交換した。

### 【消防団員の確保対策】

#### 現状

何度も勧誘に赴いたり、自治会や訓練をとおして消防団をPRするなどの努力をしているところ。退団希望者を引き留めることで精一杯な部分もある。



#### 団員確保のために

消防団活動の楽しさをPRしたり、団員の処遇を改善する。女性消防団員や消防団OBの再入団等。SNSの効果的活用、小中学校での消防団教育など。

### 【理想の消防団（員）とは…】

- ・現場活動が率先してできるようになりたい。（水利部署、放水等）
- ・地元地域に感謝される消防団でありたい。
- ・家庭、仕事、消防団活動との両立ができるようになりたい。
- ・消防団だけでなく地域とのつながりの強い消防団。
- ・行動力のある団員になりたい。
- ・人や地域とのつながりを大切にする団員でありたい。
- ・活動では上下関係を大切にし、和気あいあいと楽しく笑いのある消防団。
- ・盛り上げ隊長でありたい。
- ・楽しい中にも責任感のある団。
- ・災害出動しても何をしてよいのか全団員に分かってほしい。
- ・勧誘した時に引っ張れる人材になりたい。
- ・全団員が参加できる消防団でありたい。



入団のきっかけは勧誘、地域柄など様々であるが、入団後は地域貢献を実感したり、地域との繋がりや消防団員同士の繋がりを強く意識している。プライベートな時間が確保できず、辛いことも多いようだが、理想の消防団（員）の姿は、消防団の活性化の一助となる、**パワフルな消防団（員）**の姿が多くあげられている。

**充実した消防団活動を効果的に地域の人々に発信することが、消防団の活性化及び消防団員確保に繋がる。**

## 但馬地区

開催日時：平成28年1月24日（日）午前10時00分～午後12時00分

開催場所：養父公民館

参加者：消防団員15名、各消防団事務局職員等7名 計22名

内容：消防団員確保対策に係る若手消防団員の考え

但馬地区9消防団から集まった20代から50代までの消防団員15名（階級は分団長1名、副分団長2名、班長3名、団員9名）で、消防団員の確保対策と組織強化について意見交換した。

### 【消防団員の確保対策と組織強化】

☆消防行事や訓練が多く、各団員への負担が大きい。  
団員への負担を減らすことが、企業協力ひいては新たな団員確保に繋がるのではないか。各地で発生している災害などにより、消防団の必要性は浸透しているので、その協力体制を地域ぐるみで取り組まなければならない。



**団員の負担軽減**

☆消防団員の確保に苦戦している現状がある。それを打破し、活性化に繋げるにはどうすればよいか？



- ①現状の活動に見合った分団再編
- ②地域住民との交流の中で消防団活動の理解を深める
- ③消防団内での交流を深め結束を強くする
- ④消防団の処遇改善

団員に負担をかけないシンプルな活動、企業との連携など、団員が活動しやすい環境をつくることで、消防団が活性化し、消防団員確保に繋がる。